

スローガンは、“Be the Player” 地域とともに、一人ひとりを伸ばす教育へ転換

石川県 加賀市教育委員会 教育長 **島谷千春**

しまたに・ちはる 2005年文部科学省入省。主に初等中等教育局や大臣官房に所属。横浜市教育委員会や内閣府科学技術・イノベーション推進事務局に転出。内閣府では「Society 5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」の策定に携わる。2022年10月から現職。

一人ひとりが考え、動き、 まちを変えていく

本市は、日本創成会議が2014年に発表した「消滅可能性都市」*1の1つに指摘されました。その状況を脱却するため、先端技術の導入と、それらを活用する人材育成に活路を見だし、付加価値の高い産業構造への転換と、スマートシティ化を推進しています。子どもも、将来を見据えて先端技術の基礎を学べるよう、2017年度、国の必修化に先駆けて、小・中学校でプログラミング教育を始めました。さらに、地域・企業等とも連携して、地域課題に取り組むSTEAM教育も実践しています。

それらの教育改革を加速させようと、2023年1月、「加賀市学校教育ビジョン」を策定しました。スローガンに「Be the Player」を掲げ、「学びを変える」「誰一人取り残さない」「未来は自分で創る」「地域と一緒に」の4つのプロジェクトと、その実現に向けた30の施策を示しています。

ビジョン策定において留意したのは、目指す学校教育のあり方を明確

に分かりやすく伝えることです。「プレイヤーであれ」を意味するスローガンは、本市の教育の最上位目標です。子どもだけでなく、自治体や学校、地域など、すべての人々が、自分で考え、動き、生み出さなければ、現状を変えることはできません。その重要性を印象づけられるよう、スローガンをあえて英語にしました。

プロジェクトは、教育長に着任してから2か月半、ほぼ毎日、各学校の授業を参観し、先生方との意見交換を通じて練り上げました。また、プロジェクトによって学びをどう変えるのか、言葉で説明するだけでなく、子どもの学びの様子や教員の振る舞いを絵にして可視化しました(下図)。



4つのプロジェクトでそれぞれに目指す学びを絵にして、目で見て分かるようにした。
※加賀市教育委員会の提供資料をそのまま掲載。

4つのプロジェクトで 個々の最適な学びを実現

4つのプロジェクトはすべて、「子ども一人ひとりの学びを支援する教育の実現」につながっています。その土台となるのは、1つめの「学びを変える」です。子どもが自分のペースで、自分で学べる授業に転換していきます。全国の不登校児童生徒の割合は、不登校傾向も含めると1割を超えます。その原因は様々ですが、学校で長い時間を過ごす授業がどの子どもにとっても楽しい学びの場であることが、学校に行きたくなる第1条件だと考えます。一人ひとりに個別最適化した授業は、これまでの環境では実現し切れていませんでしたが、GIGAスクール構想によって配備された1人1台の端末をフル活用して実現していきます。

そのように授業を変えても、学校になじめない子どもはいるでしょう。2つめの「誰一人取り残さない」では、すべての子どもに確実に学びを届ける仕組みづくりを目指します。オンライン授業や別室登校など

* 1 2010年から2040年にかけて、20～39歳の若年女性人口が5割以下に減少する市区町村を指す。人口の再生産力を中心的に担う層を20～39歳の若年女性人口と捉え、その層が減少し続ける場合、人口の再生産力が低下し続け、総人口も減少するという考えを基にしている。当時の全国1,799自治体のうち896自治体が消滅可能性都市とされた。



に加えて、不登校児童生徒の支援の拠点「教育総合支援センター」では、福祉部局とも連携し、学校や家庭以外の「第三の場」として安心して過ごせる場所をつくっています。地域住民と一緒にカレーを作ったり、地元企業の協力でドローンの操作を体験したりと、子どもが社会とつながる活動も重視しています。

3つめの「未来は自分で創る」では、本市の強みであるプログラミング教育やSTEAM教育などの小・中・9年間のカリキュラムを開発中です。ある小学校では、「障害者に優しいまちづくり」をテーマにSTEAM学習を行いました。子どもは、外部人材の技術支援を受けながら、視覚障害者が自動販売機で購入商品を間違えないよう、ボタンを押すと「緑茶です」といった音声が出るプログラムや、聴覚障害者向けに我が子の泣き声を感知して震えるブレスレッドを作りました。先端技術を活

用すれば問題解決の可能性が広がることを知り、自分が何かを変えたという経験をすべての子どもができるよう、カリキュラムを体系化します。

4つめには「地域と一緒に」を掲げました。本市では、これまで地域連携は活発でしたが、全校をコミュニティ・スクールに移行し、組織的に推進していきます。また、保護者や地域が新しい学びを理解し、学校の応援団になれるよう、2023年1月、ビジョンの概要をまとめたリーフレットを市内全戸に配布しました。今後は改革の進捗や成果などの情報を発信し、地域連携を強化して、子どもの学びを社会につなげていきます。

悩みに寄り添う伴走型で 教員を支援

ビジョン実現の鍵となるのは、学校や教員が動くことです。「はじめ

の一步」を軽い気持ちで踏み出せるよう、「個別最適な学び」などを実践してきた元教員3人を「教育推進プロジェクトマネージャー」として増員しました。各学校を訪問して、教員一人ひとりの悩みや課題に寄り添い、助言する伴走型の支援を行います。

改革の成果の可視化も、今後の重要課題です。学力調査に加えて、既存の心理学調査を活用して、メタ認知能力・グリット*2・自己調整力を測ることができる調査票を作成し、定期的に調査して子どもの成長を見取り、分析する予定です。

私は、学校訪問をする中で、先生方の子ども一人ひとりの成長を支えるという強い思いと、前向きな姿勢を感じ、このビジョンを打ち出すことができました。学校が変わるには、保護者や地域、企業などの力も必要です。市全体が一丸となって、子どもの学びを支えていきます。

石川県加賀市 プロフィール

◎石川県南西部、福井県との県境に位置する。山代温泉や山中温泉、片山津温泉と全国有数の温泉地を有する。2016年から、IoT人材の育成と先端技術の導入に力を入れ始め、現在はスマートシティ化を目指して、イノベーション関連企業との連携、スマート農業の導入、ブロックチェーン技術の行政サービスへの活用などを推進。 人口 約6万3,500人 面積 305.87 km² 市立学校数 小学校17校、中学校6校 教員数 416人 児童生徒数 4,336人 電話 0761-72-7970 (教育庶務課)

*2 Guts (闘志)、Resilience (復元力)、Initiative (自発性)、Tenacity (執念) の4つの頭文字を取った言葉で、「やり抜く力」と定義されている。アメリカの心理学者アンジェラ・リー・ダックワース氏が提唱した。